

内部要因・内部環境分析	強み strengths		弱み weakness	
	立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺に文化施設が隣接している集客力のある公園・森のホール2 1、と隣接して立地環境が良い、 ●空気がきれい ●公園内の野外環境を活用したプログラムを提供することができる ●東京に近いので豊富な情報が得やすく、他館との人的交流・連携がしやすい ●子どもや家族によるにぎわいを生み出せるポテンシャルがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣に集客力のある施設があるにもかかわらず、博物館への来客を促し切れていない。 ●上野に近い、都内上野周辺の博物館と比べると存在感が薄い ●専用駐車場がない、公園駐車場料金500円が不評 ●(新)八柱駅からの看板・サイン・掲示が少ない ●公園内に博物館があることを知らない人がいる 	
	利用者	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣市の小学校も利用している ●高齢者の利用(施設含む)が多い ●公園でのイベント開催時などに無料デーがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知度が低い ●中学生・高校生・大学生の利用が少ない ●ファミリー層に休日を過ごす場所として認識されていない ●小中学生以下は無料だが、高校生以上大人は有料(常設310円、企画展310円有料)のため、家族で展示を見るの観覧を妨げている 	
	文化財資料	<ul style="list-style-type: none"> ●シルクロード関係(ガンダーラ他)の歴史資料がある ●縄文遺跡の豊かな出土資料(重要文化財を含む)がある ●水戸街道や牧などに関する近世史料がある ●常盤平団地展示がある(人気) ●復元竪穴式住居(3棟)がある(人気) ●価値のある文化財が展示・所蔵されており、取材や資料貸出が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●デジタル化が進んでいない(図録・グッズのネット販売、所蔵品リストのデジタル化など) ●館蔵文化財資料の情報が積極的に公開されておらず、市民が利用しにくい ●博物館が有するコンテンツが庁内で有効活用されていない 	
	施設	<ul style="list-style-type: none"> ●面積、建物仕様等、高級感のある施設、バリアフリー仕様 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設が老朽化(開館後27年経過・長寿命化対策が必要)、暗い雰囲気、外観がわかりづらい ●案内サインが不足(駐車場や公園などからの誘導サインなど) ●休憩スペースが少ない、トイレの洋式化が進んでいない ●常設展示が開館以降、更新されていない、機器類が老朽化 ●プレイルームのコンセプトがわからない ●周辺の公立博物館は松戸市博よりも規模が小さいが無料なため、相対的に割高感がある 	
	ひと組織体制専門性	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史・民俗・考古の3分野の学芸員がバランスよく6名配置されており、レベルの高い研究がされている ●学習支援専門員が2名配置され小中学校との連携強化(博学連携プログラム) ●学芸員以外にも利用者と接するスタッフがいる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学術的な専門的機関として活用されていない 	
	外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●友の会の活動が盛んである(協働事業の実施) ●小学校社会科授業と連動した展覧会を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> ●友の会以外の歴史ファンのグループとの交流が希薄、友の会会員の高齢化 ●市外、県外の博物館との共同事業が少ない ●アウトリーチ型の取組みが少ない ●観光資源・史跡整備との連携が弱い ●市の関連部署、市民や他の施設、町会、商店会等との協働体制が弱い 	
	財源経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ●市の直営なので経営は安定している ●相当の予算が確保されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画がないため、対外的に事業が不明瞭である ●博物館からの情報発信力が弱い、不足している ●集客に対して職員の意識が低い ●ミュージアムショップ、喫茶コーナーの品揃えが少ない、客が少ない ●新規事業への予算措置が難しい 	
外部要因・外部環境分析	機会 opportunities		脅威 threats	
	社会環境	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの学習のためにお金をかける・時間を割く親が増加(教育熱心)、乳幼児でミュージアムデビュー ■高齢化(市民参加による博物館運営の機会増大) ■「縄文」ブーム ■外国人居住者の増加 ■レジャー志向：近場で安く済ませる傾向「安・近・短」 ■学習指導要領で博物館利用を推奨(アクティブラーニングの推奨) ■小学校社会科にぞ「昔の暮らし」の項目がある(単元は残っているが減少傾向) ■ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)の場として、博物館が注目されている 	<ul style="list-style-type: none"> ■少子化 ■高齢社会 ■消費税アップによって各家庭でレジャー費用削減の可能性 ■地方自治体の財政難 ■緑環境の減少 ■地球温暖化による自然災害の多発 ■巨大地震 ■国の重要文化財のあり方の変革(保護→活用) 	
	松戸の環境	<ul style="list-style-type: none"> ■松戸市は、子育て・教育・文化を重点政策としを置いている ■松戸市の人口は横ばいだが、世帯数は増えている(子育て層の転入) ■地域愛：地域を盛り上げたいと考える市民(若い世代も含めて)が増えている ■社会貢献志向：企業・大学・高齢者が活動の場を求めている、パートナーを求めている ■東京に隣接している 	<ul style="list-style-type: none"> ■松戸市人口減少による担税力低下 ■市民の社会教育への関心低下 ■小学校社会科見学の減少 ■市内小中学校生徒の読書率が低い ■開館時に比べると博物館に対する市内部の評価が低下傾向にある ■戸定歴史館は観光資源として価値が庁内で認識されているが、博物館は学術的文化施設としての存在意義が認められていない 	
	立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ■近隣の柏市に博物館施設がない、近隣市は乏少状況(鎌ヶ谷市は企画展示室がない等)である ■近隣に集客力のある公園・森のホール2 1がある、緑環境が豊か ■テラスモール松戸の開店で人の流れができた ■博物館が文化資源の掘り起こしの中核になり得る可能性がある 		